

共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画（2019.10.11）

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
釧路市 (北海道)	ベトナム (パラパワーリフティング、パラ陸上)	<p>・本年1月及び8月に、ベトナムのパラパワーリフティング選手の合宿を受け入れ、学校訪問などの市民との交流事業を行った。大会後交流として、市内で開催される祭りの会場等での成果報告会等を通じて、健常者のパラスポーツへの理解を一層進め、多様性理解や心のバリアフリーを推進する。</p> <p>・小中学校の改修の実施に合わせ、新たに14校に多目的トイレとスロープを設置した。今後、公共施設の改修を行う際に、障害者の意見を聞いた上で、バリアフリー化を推進する。また、主要施設のバリアフリー設備の状況を掲載したバリアフリーマップや障害者への相談や支援を行う施設等を掲載した「釧路市障がい者支援施設・事業所ガイド」を作成している。</p> <p>・2019年8月に横連携の一環としてベトナム・釧路市・国分寺市・佐伯市の中学生が釧路で交流するとともに、パラバトミントン日本代表とも交流した。2017年に「釧路市手話言語条例」を制定し、手話教室の開催、ガイドブックを作成等手話の普及手話の普及に向けた施策を展開している。また、2019年9月に市長以下幹部職員が車いすです市内を回り障害者の日常を体験、今後職員にも体験を拡充しハード・ソフト両面で優しい街づくりを進める。</p>
滝川市 (北海道)	アルゼンチン 共和国 (パラカヌー)	<p>・アルゼンチンパラリンピアンと市に所在する難病児キャンプ「そらぶちキッズキャンプ」の子供たちが交流し、夢と希望をはぐくむ取組を実施予定。また、アルゼンチンのパラリンピアンが合宿で利用する施設について、バリアフリー化の改善アドバイスを頂き、ユニバーサルデザインのまちづくりに活用する。</p> <p>・バリアフリー法に基づく基本構想を踏まえ、カヌー等の体験施設である海洋センターのトイレ、シャワー室のバリアフリー化や浮桟橋へのスロープを車いす対応とするなど、バリアフリー化を実施予定。また、滝川駅前の歩道や公共施設、病院が集積する官庁通りの歩道のバリアフリー化を推進する。</p> <p>・北海道教育大学と連携し、小学校で障害理解教育（アダプテッドスポーツ出張授業）を実施し、その場の全員の身体状況に応じたルールで分け隔てなくスポーツする機会を設けている。市内奉仕団体と共同し、特別支援学級の子供たちにカヌーや手漕ぎボート等、海洋性スポーツの体験イベントを毎年実施している。今後、障害者スポーツ指導員（ボランティア）の養成やパラカヌー支援講習会等を実施し、障害者スポーツへの理解を更に深める。</p>
弘前市 (青森県)	ブラジル (パラ柔道)	<p>・弘前市出身の柔道家、前田光世（コンデ・コマ）の縁をきっかけとして、2017年から3年連続で視覚障害者柔道ブラジル代表の強化合宿を受け入れ、学校訪問やシンポジウム等を行うほか、小学生から大人までの市内の柔道家とともに公開合同練習会を開催するなど、柔道を通してパラリンピアンとの交流を行っている。合宿を契機に、パラスポーツの普及や心のバリアフリー、ユニバーサルデザインの街づくりに2020年以降も継続的に取り組む。</p> <p>・観光の中心である弘前公園のバリアフリー化を行うほか、さくらまつり期間中には、車いす無料貸出と介助ボランティアが常駐。また、学生団体、車いす団体と共同で公園内のバリアフリー状況調査を実施し、YouTubeで発信。今後、点字メニュー、折り畳み式スロープ等の物品の購入、簡易スロープ等の工事の費用を助成する。</p> <p>・障がい者スポーツ支援事業費補助金を2018年度に創設し、レクリエーション用車いすの購入や知的障害者を対象としたスキー教室、市民向けボッチャ体験会などに助成。民間団体と連携し、障害を持つ人の働く場の提供や職業訓練を通じた障害理解の啓発活動を市役所内や大学、イベント等の場で実施。</p>
大館市 (秋田県)	タイ (ボッチャ、パラ陸上)	<p>・2018年12月にタイのボッチャ選手が来市し、障害者を含む小学生から高齢者まで約100人が参加したボッチャ体験交流会を行うとともに、現役パラアスリートを招きパラリンピック開幕1年前イベントを実施し、市民200人が参加した。今後とも、タイチームの事前合宿及び大会後交流、日本人パラリンピアンによる講演や地元の障害のある選手等によるパラスポーツ体験等を実施し、障害理解と心のバリアフリーを促進する。</p> <p>・JR大館駅の改築にあわせてエレベーターやバリアフリー対応トイレを設置するとともに、JRと連携し駅舎にボッチャコートを新設した。また、市中心部の歩道について、段差を解消と点字ブロックを設置し、融雪歩道とするとともに無電柱化も行う。市庁舎建替（2021年完成予定）に際して、障害者等の意見を取り入れながら、隣接する一体化された公園と併せてバリアフリー化する。</p> <p>・2019年4月から県内初の手話言語条例を施行し、障害者サポーター養成講座や障害を知る教室、点字体験教室等を開催している。また、ボッチャ体験会や出前講座を継続して実施するとともに、タイにちなんだ冠をつけた市民大会を開催する。また、事前キャンプを契機に、今後のパラスポーツ大会等で継続して活動していただける市民ボランティアを育成する。</p>
鶴岡市 (山形県)	ドイツ (ボッチャ) モルドバ (パラ柔道)	<p>・モルドバの視覚障害者柔道、ドイツのボッチャチームの合宿誘致や高校生を始めとする市民との交流を通じて、すべての市民が互いに人格と個性を尊重しあう共生社会の実現に向けた取組を進めるとともに、将来的にボッチャなどのパラスポーツ大会を実施するなど、市民がパラスポーツへ気軽に取り組める環境を整備し市民主体の大会後のレガシーとなるような取組につなげることを目指す。</p> <p>・これまで取り組んできた、観光庁事業を活用した民間宿泊施設のバリアフリー化推進や、公共施設のトイレの洋式化・手すりの設置といった障害に配慮した施設改修・バリアフリー化に継続的に取り組むとともに、障害に対する相談支援体制の充実や就労支援、生活基盤整備、障害に配慮した体育施設の整備等を推進する。</p> <p>・中学生を対象として車いすバスケ体験等を行うとともに、一般市民を対象として市民総合体育大会等様々な機会体験ブースを設け、パラスポーツの普及・拡大に取り組んでいる。また、障害者の芸術創作・表現活動を紹介する展示会の開催等、障害者の活躍の場の創出に取り組んでいる。今後も心のバリアフリー関連事業等を通じて、障害への理解を深め、障害者差別解消条例策定（2020年施行予定）へと繋げていく。</p>

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
酒田市 (山形県)	ニュージーランド (パラトライアスロン)	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュージーランドのパラトライアスロン選手及びコーチを「みなと酒田トライアスロンおしんレース」へ招待し、小中学生や高校生、市民との交流を深める。市で設けている若手選手を招くスカラシップを活用して2020年以降も交流を継続していく。 ・酒田市スポーツ推進計画の施設整備プラン（2019年～2029年）に基づき、ユニバーサルデザインに配慮した体育館等スポーツ施設の計画的な整備と適正な管理を進め、誰もが安全で快適にスポーツを楽しめる環境を提供するとともに、観光バリアフリーの観点から、障害者・車いすの方がアクセスしやすい海水浴場の整備などを進めていく。 ・市民を対象にユニバーサルマナーの研修会や小学生・障害のある子供・保護者を対象としたボッチャ体験会を実施するとともに、障害者が助けを求める際に活用するヘルプカードを製作・配布し、一般の市民が支援する仕組みづくりを進める。また、「差別解消推進条例（仮称）」を制定し、障害のある人もない人も共に生きることのできる街づくり・心のバリアフリーの実践を進める。
東根市 (山形県)	ドイツ (シッティングバレーボール、ゴールボール)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前合宿及び事後交流において、シッティングバレーボール及びゴールボールの体験・交流会の開催等により、小中高生、市スポーツ推進員や障害者団体等市民との交流を積極的に実施するとともに、日本人パラリンピアンによる講演等のイベントを開催し、障害者に対する理解を深め、市民の心のバリアフリーを促進する。 ・医療的ケアを要する子供や重度の障害を有する子供も等しく保育が受け入れられるよう、施設整備と専門スタッフを配置した認定こども園（公設公営）を開設予定。小学校のトイレのバリアフリー化(2019年度全校完了予定)、多目的トイレやエレベーター設置を推進。2016年度にユニバーサルデザインの考え方にに基づき、市民ギャラリーや図書館等の公益文化施設「まなびあテラス」と併設公園を整備し、多くの障害者も利用している。 ・ドイツチーム合宿をきっかけとして日本体育大学と締結した協定に基づき、小学生や指導者の障害者スポーツ体験等、市民の健康づくりやスポーツの推進に向けた取組を同学の協力の下継続して実施。ドイツチーム招致をきっかけに、障害者スポーツ指導者を養成する。視覚障害者等を対象に、ボランティアと連携し広報紙（月2回発行）を音訳し、利用者への郵送、公共施設への設置、市ホームページへの掲載等を実施。
渋川市 (群馬県)	ニュージーランド	<ul style="list-style-type: none"> ・20年以上にわたる交流を行っているニュージーランドからパラリンピアンを招聘し、陸上競技の体験、学校訪問等の交流を積極的に実施するとともに、市出身のパラリンピアンによる講演会等を契機として、障害者と健常者の交流の充実等を図る。 ・これまでの渋川駅のバリアフリー化、ノンステップバスの受入れ、公共施設のバリアフリー化、災害時の宿泊施設での受入体制の整備等に加え、バリアフリー施設マップの公開、ホテルのバリアフリー改修、アプリによる観光案内の充実、バリアフリー対応ツアーの提案等を通じたユニバーサルツーリズムの推進、補助犬トイレの整備等に取り組む。 ・手話言語条例の制定を契機として、市民、医療機関、観光業、学校における手話教室を一層充実させるとともに、ボッチャ体験会の開催などパラスポーツを題材とした体験教室や講演会を通じた障害者と健常者の交流の機会の増大や、観光施設における市民参加型の心のバリアフリーの促進に取り組む。
富岡市 (群馬県)	フランス	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスパラリンピアンとの交流として、日本人パラリンピアンとも連携して、パラスポーツの競技体験会、講演会、学校や富岡製糸場への訪問等により市民との交流を積極的に実施し、これを契機として市民に対する心のバリアフリーを促進する。 ・市の総合計画に基づく富岡製糸場への来訪者を視野に入れたバリアフリー化や、市庁舎や鉄道駅のバリアフリーを進めてきた。更に、全ての公共施設の改修の際には、障害者の意見を聞いて改修を行うとともに、富岡製糸場や周辺観光施設における障害者参画によるバリアフリー点検、バリアフリー化や、観光施設のバリアフリー情報の発信等のユニバーサルツーリズムを推進する。 ・手話言語条例の制定、小中学校における啓発、パラアスリートによる講演会などこれまでの取組に加えて、交流を契機として、日本人パラリンピアンとのスポーツ交流の推進や心のバリアフリーに関する講演、研修会等の充実を図る。
国分寺市 (東京都)	ベトナム (パラ水泳)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムパラアスリート選手団との交流を通じて市民の障害理解と心のバリアフリーを促進。更に市にゆかりがあり、世界大会等に出場するパラアスリートを「応援アスリート」として認定、パラスポーツへの関心惹起や普及啓発を促進する。 ・西武鉄道の国分寺駅のホームドア設置（2020年度完成予定）、恋ヶ窪駅への内方線付警告ブロック設置等鉄道駅のバリアフリー化を実施。けやき運動場の車いす利用者の環境改善にむけて、周囲の地盤面とグラウンド面の高さを揃えるバリアフリー化工事を実施。 ・2018年より全ての公立小中学校において、パラアスリートの招聘やパラスポーツ体験会を実施。障害への理解促進を図るとともに、パラリンピックを通じた心のバリアフリー教育を展開。ベトナムパラ水泳選手団の事前合宿を支えるボランティアの募集や2020年以降のベトナムパラ選手団の合宿・交流等により市民に心のバリアフリーを浸透させる。

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
小松市 (石川県)	ブラジル、イギリス、フランス、カナダ (パラカヌー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルパラカヌー選手とこども園の児童や小中高生のカヌー部員との交流、日本人パラリンピアン及び地元アスリート選手との交流等を実施。2020年以降も交流を積極的に実施し、市民が共生社会への理解を深める地域づくりを推進。 ・パラチーム事前合宿競技場におけるカヌー乗降用スロープの設置等の各種スポーツ施設のバリアフリー化。公共トイレの整備方針を策定しコミュニティセンター等に多目的トイレや音声案内機能等を設置。民間施設の「やさしいトイレ」整備に補助を実施。NPOと連携し、観光施設や飲食店、宿泊施設等のバリアフリー調査を行い、市内3エリアのバリアフリー観光マップを発行するとともに、障害者団体のツアーを受入れ、モデルコースの検証など、「やさしいまちづくり」を推進。 ・2018年に条例を制定し、市庁舎窓口に視覚又は聴覚障害者とのコミュニケーション支援のためのタブレット端末の設置や、市職員の手話研修、事業所向け研修等を実施。障がい者スポーツの推進のため市武道館などで障害者のための専用利用日を設定し無料開放。市スポーツ協会と連携し、障害者スポーツ体験会の実施や指導者を育成。老若男女、健常者も障害者も、誰もが楽しめる「ゆるスポーツ」の普及を推進している。
富士 河口湖町 (山梨県)	フランス共和国 (パラトライアスロン)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前合宿及び大会後交流において、パラトライアスロン選手・監督の学校訪問、交流会の開催等により、フランスのパラリンピアンによる子供をはじめとする町民との交流を積極的に実施するとともに、日本人パラリンピアンによる講演やパラスポーツ体験等のイベントを実施し、町民の障害理解と心のバリアフリーを促進する。 ・観光連盟と共同し、車いす使用者、視覚障害者及び聴覚障害者が参加して河口湖駅から河口湖畔への3ルートを歩道やトイレ等を点検をするモニタリングツアーを実施し、歩道の段差解消や点字ブロック改修等を実施した。今後、観光連盟と連携し、モニタリングツアー等により観光地のバリアフリー化を進める。また、今後、全ての公共施設の改修の際には、障害当事者等の意見を踏まえ、ユニバーサルデザイン視点で改修を実施する。 ・民間団体や企業と連携し、小中学校での義足体験やパラスポーツを通じた心のバリアフリー教室、町民イベントにおけるポッチャ体験等を実施している。今後、小中学校での心のバリアフリー教室を引き続き実施するとともに、フランスパラトライアスロン合宿を毎年受入れ、町民との交流を行う。
守山市 (滋賀県)	トルコ (ゴールボール、パラ柔道)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでトルコのゴールボール及び視覚障害者柔道選手団との交流を二箇年にわたり行うとともに、大会前後にもゴールボールや視覚障害者柔道の体験、学校訪問、交流会を開催する。2020年以降も市内のパラリンピアンや障害者スポーツ協会、アスリートネットワークと一緒に、障害者への理解、思いやりの心の醸成、共生社会の実現に向けた取組を盛り上げていく。 ・障害当事者等が参加する「守山市UDまちかどウォッチャー会議」を設置し公民館、道路、スポーツ施設等の公共施設の整備や改善に当たりユニバーサルデザインの視点で提言。これを受け、これまで市民運動公園などで誘導サインの設置、トイレ位置サインのサイズ変更など改善。 ・障害者等の災害弱者の避難について「UD避難訓練」を実施し、車いすの基本や、段差、坂道での使い方、車いすの介助、視覚障害者の介助のポイントや車いすやアイマスクを使った避難体験と介助体験を実施。小学校の部活動「ユニバーサルスポーツクラブ」と市内のゴールボールチームが連携し活動中。今後、守山市障害者スポーツ協会と連携し、他の小学校や市内でゴールボールなどのユニバーサルスポーツの普及を推進。
益田市 (島根県)	アイルランド (自転車)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイルランドのパラリンピック自転車競技選手団の事前キャンプや大会前後の交流、パラサイクリング競技の国内・海外の選手との交流・体験教室等を通じて、パラスポーツの知名度向上を図るとともに、心のバリアフリーの推進やユニバーサルデザインの街づくり等の共生社会の実現を加速させる。 ・JR益田駅のトイレ改修等公共施設を誰もが安心して利用できるようバリアフリー化を進める。また、市内のバリアフリー対応状況を点検し、「ますだ福祉マップ(しまね福祉マップ)」の充実等を図ることにより、ユニバーサルデザインの街づくりを推進する。 ・手話言語条例の制定、オリパラ教育やパラリンピック競技体験の充実、ヘルプマーク等の普及啓発、障害者に対する手助けや配慮を实践する「あいサポート運動」を一層推進することにより、心のバリアフリーの充実・強化に取り組む。
中津市 (大分県)	マレーシア (パラバドミントン)	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年にマレーシアのパラバドミントン選手団のキャンプと小学生120名とのふれあい交流を実施。2019年8月には、地元ゆかりのあるパラ金メダリストによるパラ陸上教室を小学校で実施。今後、事前合宿における交流や、ゆかりのあるパラリンピアンとの交流の継続的な開催により、パラスポーツや障害への理解を深める。 ・中津市歴史博物館(2019年11月完成予定)や新公民館(2020年度完成予定)について、多目的トイレやスロープの完備、展示物の点字での説明等、バリアフリー環境を整えるとともに、今後、公共施設の多目的トイレ100%設置を目指す。さらに、障害のある方等が利用できる「大分あったか・はーと駐車場」を推進中。 ・2019年4月に施行した手話言語条例を契機に、従来の手話等のボランティア人材育成のための講習会に加えて市職員に向けた研修会を新たに開催。今後は事業所等にも拡大する予定。精神疾患や障害がある人が楽しめる「ソーシャルフットボール」を2019年5月に初めて開催。幼児から60代まで幅広い世代から約80名が参加。今後大会規模の拡大、定着化を目指し取り組んでいく予定。

自治体名 (所在都道府県名)	相手国	活動計画
佐伯市 (大分県)	ベトナム (パラバドミントン、パラ卓球、パラ陸上、パラ水泳、パラパワーリフティング)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年8月に中学生8名が横連携の一環としてベトナム・釧路市・国分寺市の中学生と交流するとともに、パラバドミントン日本代表とも交流。また、ベトナムパラバドミントン及びパラ卓球チームの事前合宿を受け入れるとともに、大会終了直後にベトナムパラ選手団を招き交流事業を実施。これらを通じて、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーへの市民理解を深め、共生社会の実現に向けた取組を加速化。 ・エレベーターや多機能トイレの設置等のJR佐伯駅のバリアフリー化を2021年3月までに完成。地域福祉の拠点である社会福祉センターの改修、複合文化交流施設及び周辺道路のユニバーサルデザイン化等の公共施設のバリアフリー化を推進。選手村に地元の木材を提供しており、その返却木材を使った公共施設のバリアフリー化を目指す。 ・第18回全国障害者スポーツ大会で優勝経験のある地元卓球トップアスリートとのパラスポーツ体験交流会を実施予定。2020年秋に開館予定の複合文化交流施設「さいき城山桜ホール(仮)」において、障害者芸術文化祭を開催予定(市民協働事業として年1回開催)。市民の障害理解と心のバリアフリーを促進。ベトナムのパラリンピアンとの交流事業に取り組むボランティア団体への支援のため、市民団体応援補助金を交付。
宮崎市 (宮崎県)	イギリス、 カナダ (トライアスロン)	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダパラチーム、イギリスパラチームによる小中学生を対象としたトライアスロン教室や握手会などを開催。2020年以降も小中学生との交流にとどまらず、介護施設への訪問なども計画。2026年の「全国障害者スポーツ大会」の機運醸成に繋げる。 ・約500店舗へのアンケートや障害当事者の意見を踏まえ、飲食店用、観光用、コンビニ用など6種類のコミュニケーションボードを作成し、市内348ヶ所に配布。「宮崎市福祉のまちづくり条例」にもとづき、バリアフリーに関する整備基準の遵守を義務付け、これまで約2,000の民間施設と約300の公共施設に適合証を発行し、各施設の入口等に掲示。 ・小中学校、市民向け障害理解の出前講座や、小中学校の教職員を対象とした人権教育に関する研修、パラスポーツ体験や選手の講演、絵画・習字の展示、音楽演奏等障害理解啓発に関する市民参加型イベントを開催している。また、「視覚障害者マラソン宮崎大会」を1992年以来、「青島太平洋マラソン大会」との同時開催で実施している。2018年は選手98名、伴走者141名が参加、両大会通じて3,376名のボランティアが参加している。